技術を評価する視点（AIを例に）

AIを使った技術を取り入れるか、どのように考えて決めるとよいのだろう

例（架空）：給食の食べ残しを、カメラとAIで量って記録するしくみを、学校に入れるか

1 評価する：4つの視点を通して見る

社会からの要求
何のために、だれが望むか
＋ 食べ残しを減らしたい（学校・家庭）

安全性
人や情報は安全か
－ カメラに人の顔が写らないか　－ 記録をどう守るか

経済性
費用や手間に見合うか
－ 機械や電気代、点検の手間

環境への負荷
環境にどんな影響があるか
＋ 食べ残しが減る　－ 機械の電力、こわれたときの廃棄

どの視点にも、よい点（＋）と問題点（－）がある

2 選ぶ：折り合いを付けて決める

入れる／入れない／条件付きで入れる
例：顔が写らない向きに付け、
1学期試してから決める

3 改良を考える

使った結果から、量り方や
知らせ方を改良する。
新しい使い方も考える

改良したら、また評価する

考えるときのポイント

折り合いを付ける
すべてがよい技術はない。
目的にいちばん合うものを選ぶ

立場を変えて考える
使う人・つくる人・まわりの人
（写る人など）の立場から

一度決めても見直す
使い方や社会が変われば、
評価も変わる

※ 架空の例。視点は、技術・家庭科の学習指導要領解説の「技術の見方・考え方」をもとにした。